巻　頭　言

正しいことより面白いほうがいい
――仁王，慈母観音，面白坊主，そして臨終――

（公社）日本透析医会
副会長　隈　博政

医師になってちょうど40年たった．2年目の研修先である福岡市立第一病院（現，福岡市民病院）では外科が腎移植と血液透析を行っていて，それ以来血液透析に携わってきた．約40年の間に，透析患者に対する私の療養指導態度もかなり変化してきた．

若いころは，覚えた知識をストレートに透析患者に伝えていた．毎回検査データが悪い患者や，塩分制限・水分制限が守れない患者に，「なぜ守れないのですか？」と，まるで仁王様のような態度であった．血管外科の患者にも同様であった．四肢切断になっても喫煙するBuerger氏病（閉塞性血栓性血管炎）の患者の病室で煙草を見つけた時には，「病院は治療道場です．治す気がないのなら退院しなさい．」と怒鳴った．もちろんアル中で肝硬変の患者が酒を持ち込んだ時は，即退院させた．

しかし，10年ほどたつと，そのような療養態度が悪い患者たちにもなんとか打つ手がないものかと思案し，「どうぞ心を入れ替えてください．」と願うようになった．といって，妙案があるわけでもなく，ただ医師としてのベストを尽くして，その結果を良くても悪くても患者とともに受け入れるという時期が続いた．まるで慈母観音の気分である．

20年ほど前，京都の学会のついでに禅寺巡りバスツアーに参加した．たしか，大徳寺の塔頭の一つと思うが，そこの大広間で皆と昼食をとっている時に，ふと掛け軸を見ると，「正しいことより面白いほうがいい」と書いてある．そこへ，若い住職がラジカセを下げて腰を振りながら，杉良太郎の「ぼけたらあかん，長生きしなはれ」を歌って出てきた．この時は，「面白ければ正しくなくてもいい」とでもいうのか……何と不真面目で不謹慎な，と感じた．しかし，なぜか妙に心に引っかかっていた．

診療の現場でも，面白い会話のほうが患者の不安が和らぐ．塩分制限・水分制限が守れない患者が「先生，すみません」と言うと，「いや，私に謝らなくて，あなたの体に謝ったら．ダメージを受けたのは，あなたの体ですよ．大事にしてね．」とか，毎回検査データが悪い患者に，「まだお正月の宴会が続いているのですか？　世間はとっくに3月ですよ．」などと，ウィンクをしながら諭す．すると，患者はホッとして「先生に許してもらった」という安心した顔をする．「許す」というのはいい言葉だなと，しばらくは思っていたが，大変な勘違いであることに気付いた．医師という私は，ただただ，患者がより良くなるように診療し，結果が良くなるように祈るだけで，決して「許す」などという神様のような立場ではない．

このようなことを自問自答しながら，できるだけ面白い診療を心掛けているうちに，なにかしら全体の治療結果が良くなってきた．暴飲暴食などで検査データが悪い患者の数も次第に減ってきた．なるほど，面白いことのほうが人を動かす．あの掛け軸の言葉は，できるだけ多くの衆生を救おう

と一所懸命修行した僧侶の，私たちへの教えなのだろう．「正しいことより面白いほうがいい」というのは，「面白ければ正しくなくてもいい」のではなく，「正しいことを面白くやれたらいいなぁ」ではないかと，今は考えている．

仁王から慈母観音，そして面白坊主へと 10 年刻みで医師としての態度が変化してきたが，この文を終わるに臨み，最近の 10 年間で考えていることについて述べる．

看取りに際して，家族に伝える言葉がある．それは，「臨終とは，終わりに臨むと書き，死亡時刻の瞬間を意味しているのではない」ということである．歌舞伎に例えて説明している．筋書が終わりに近づき，主役が見えを切り，ゆっくりと緞帳が降りはじめる．「○○屋〜！」と声がかかる．緞帳が降りてしまっても，緞帳の向こうにいる役者が見えを切ったまま動かないのをしばらく感じる．再びゆっくりと緞帳が上がり，役者たちが勢ぞろいをして挨拶をする．この流れのすべてが「終わりに臨む，すなわち臨終」であり，緞帳が床に着いた瞬間のみが「臨終」ではない．

死亡時刻に間に合わなかった事で罪悪感を持っている家族に，この話をしている．そして，「亡くなられる前も，亡くなられた後の喪に服する 1 年間も，すべて臨終でしょうから，生前に時を共有していた事や，亡くなられた後も皆さんで思い出してあげるのが，臨終に立ち会った事になりますよ」，と伝えている．その家族の救われた気持ちになった笑顔に，こちらが救われる．

日々是臨終，日々是好日．